

心理科学研究科

心理科学専攻

人材養成目的

心理科学研究科では、心理学の科学的側面と実践的側面の両者を重視して、心理学を中核とする人間行動研究を基盤として問題解決を図ることを目指し、科学的アプローチ、地域での実践活動、学際研究及び国際交流という四つの方針を立てて教育研究を推進することで、現代社会の諸問題を理解、解決できる有能な高度職業人や研究者の養成を目的とする。

心理学専修では、現代社会の心理学専門家や研究者として必要な資質を習得し、問題解決を実践できる人材の養成を目指す。

臨床心理学専修では、地域社会や社会システム全体での心のケアとサポートの専門家として活躍できる人材の養成を目指す。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

〔博士前期課程〕

- ①人間と社会の諸問題を心理学的アプローチで解決できる高度な知識と技術を身につけていること
- ②心理学専修においては人間行動のメカニズムを理解するとともに社会問題の理解と解決にかかわる高度な技能と知識を身につけていること
- ③臨床心理学専修においては人々の精神的健康の問題解決に役立つ高度な知識と技術を身につけていること
- ④両専修とも研究や問題解決のために関係する人々や他機関と協同連携し、学際的な領域にも関わること

〔博士後期課程〕

前期課程の4つに加え、知覚・認知、神経科学、社会、応用・交通、臨床の5つの研究領域から心理学的分野の高度専門的職業人及び国際的な心理学研究者であること

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

- ①心理学の諸問題に対する高度な知識と技術
- ②心理学の諸問題に対する高度な研究能力
- ③心理学の諸問題の解決を目指す高度な実践力

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

両専修に関連した諸問題に深い関心を持ち、人々の安寧と福祉の向上に情熱を燃やし、次のいずれにも当てはまる人を望みます。

- ①自らの専門領域に関心を持つことはもちろん、人間に対する幅広い興味や関心を持っている人
- ②自ら学んだことを他者に効果的に伝達できる人
- ③他者を尊重し、協調できる人
- ④自らの心身の健康に配慮し、ユーモアの精神を持ち、指導力の豊かな人